

名槍日本号

松口月城

美酒元来吾好所
 斗杯傾尽人驚倒
 古謡一曲芸城の中
 呑み取る名槍日本号

酒はのめめむならは白の本一の槍を
 呑み取る名槍日本号

【作者】

松口月城（一八八七〜一九八一年）名は栄太（えいた）、号は月城。明治二十年福岡市有田に生まれる。熊本医学専門学校を卒業し、18歳にして医師となり世人を驚かせた秀才である。医業のかたわら漢詩を宮崎来城に学び、詩、書画、共に巧みであった。なお本会顧問を永年つとめられる。昭和五十六年七月十六日没す。年九十五歳。

【語釈】

*名槍日本號…朝鮮出征の折 福島正則侯が使用したという槍の名前で黒田侯の家臣 母里太兵衛（もりたへえ）が拝領して持ち帰ったという *斗 杯…一斗入りの杯 *藝 城…広島城

【通釈】

酒はもともと好きな方であり、大杯に盛られた酒を一息（ひといき）に呑みほして並居る人々を驚かせたのは、唯この槍がほしいためであった。母里太兵衛は主君の使いで芸州侯（福島正則）を訪ね謡曲の一節を歌い且つ舞い、斗杯傾け尽くして約束によってこの槍を拝領して帰ったのである。この詩は筑前今様にあり編曲して今日黒田節といって、あまねく歌われている歌詞を詩作したものである。